

○議長（福田正男議員） 次に、北川陽菜さん。

〔5番 北川陽菜さん登壇〕

○5番（北川陽菜さん） 北川陽菜です。よろしくお願ひします。

それでは、通告に従ひまして質問いたします。

私は、ふだんの生活でバスが使いにくいと感じています。私の家の近くにはバス停はありますが、登校する時間にちょうどいいバスがありません。なので、登下校は祖母に車で高校まで送迎をしてもらっています。

また、私はボランティア部に所属しており、障害児童クラブや特別支援学校などさまざまな場所にボランティアに行くのですが、そのときもバスの便がなく、不便を感じています。

また、友人が初倉に住んでいるのですが、バス停が近くになく困っていると伺いました。ですから、何とかしてバスについて改善していただけないかと思っています。

まず、島田市のコミュニティバスの現状について質問させていただきます。

(1)現在のコミュニティバスの利用状況、利用率はどのようになっていますか。

(2)バス停の間隔はどのように決めていますか。

(3)バスの本数を増やす予定はありますか。

以上で、壇上での質問を終わらせていただきます。

〔5番 北川陽菜さん発言席へ移動〕

○議長（福田正男議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） 北川さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。現在、島田市のコミュニティバスは、島田地区が8路線、金谷地区4路線、川根地区1路線の計13路線の運行を行っております。一日の便数は、島田地区が107便、金谷地区40便、川根地区10便となっております。平成28年度の利用者数は25万6,865人でした。また、一日の平均利用者数は400人で、これは島田

市の人口の約0.4%に当たります。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。バス停の間隔については、市街地では住宅がたくさんありますので、200メートルから300メートル間隔を基本としております。また中山間地域においては住宅のあるところを中心に設置しておりますので、場合によっては3キロメートルほど間があく区間もございます。設置は、地元自治会の承諾を得て決定しております。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。バスの運行本数については、利用者の利便性が大きく向上する場合には増やすことは必要であると考えております。現状をお話すると、一日1往復増やしますと、1年間で約630万円の経費がかかります。それに対して運賃収入は1年間約100万円なので、530万円の赤字となります。また全国的にバス会社における運転手不足が深刻な問題となっております。今は1往復増やすだけでも容易なことではございません。しかし、コミュニティバスは市民の皆様の移動手段としての役割を担っておりますので、バスの運行については今後も市民の皆様が利用しやすいものになるよう調査研究を行ってまいります。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願ひをいたします。

○議長（福田正男議員） 北川さん。

○5番（北川陽菜さん） ありがとうございます。再質問させていただきます。

今の答弁の中で、市民の皆様が使いやすいものになるための調査研究とありましたが、具体的にどのような調査研究を行ってまいりますか。

○議長（福田正男議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） それでは、北川さんの御質問にお答えをさせていただきます。毎年バスの乗降調査、それからバスに乗っている

方をお願いをしましてアンケート調査を行っています。バスの乗降調査については、始発のバスから終発のバスまで13の全路線を10日間ほどかけて行っています。この調査の内容については、便ごとの利用人数、それからバス停からバス停までの間の利用人数などを調べることに加えまして、利用者の御意見、それからバスの運転者の皆さんの意見などを聞いております。またアンケートでは利用者の年齢、性別、それから利用目的、行き先、それから利用したい時間といったことを尋ねたり、バスに関しての自由な意見などをいただいております。これらの調査をもとにして、時刻の調整、それからバスを増やしたり減らしたりと、また経路の変更などを検討しています。

以上です。

○議長（福田正男議員） 北川さん。

○5番（北川陽菜さん） ありがとうございます。バスに乗っている方にアンケートを実施しているということですが、アンケート結果からどのような意見がありますか。

○議長（福田正男議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） アンケートでいただいた意見としては、1時間に1本バスが欲しいとか、本数をもっと増やしてほしい。そういったバスの本数に関する事、それからバスの時間を統一してほしいといった時刻に関する事が多くあります。そのほかには、バスの運賃に関する事、経路に関する事などをいただいております。また、そのほかにも利用者も少ない中、運行していただきありがたいとか、運転免許証を持っていないので、いつも利用させていただいてますとかいった感謝の言葉もいただいております。

以上です。

○議長（福田正男議員） 北川さん。

○5番（北川陽菜さん） ありがとうございます。アンケート結果からもバスの本数を増やしてほしいという意見が多いようですが、バスの減便、増

便、また新規路線の創設をする場合、どんなことを基準にしていますか。

○議長（福田正男議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） 基準の一つの例としてですが、例えば便を減らす場合、この場合に片道の利用者が、例えば5人以下の便については減便の対象として検討しています。また増便の場合、それから新しく路線を設置する場合には、1便当たり10人から15人以上の利用が見込める場合については検討をしています。いずれについても街中とか郊外とかいった地域の特性とか事情、それから通勤・通学といった利用者が多い時間帯、それから民間バスとの競合といったさまざまな考えることがたくさんございますので、こういった基準にとらわれないで、状況に応じて柔軟に考えて決めさせていただいております。

以上です。

○議長（福田正男議員） 北川さん。

○5番（北川陽菜さん） ありがとうございます。先ほどからなかなか増便や新規路線の創設は難しいと感じていますが、ちなみに市民の皆様のバスの利用目的で多いものは何ですか。また、主な行き先はどこですか。

○議長（福田正男議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） 平成28年度、昨年度ですけれども、行いましたアンケート結果を見ますと、主な利用目的については通勤・通学が32%、それから通院が24%、買い物が21%といったような状況となっています。主な行き先ですが、駅までが41%で圧倒的に多くなっています。あとは市民病院、開業医、それから市役所や保健センターなどの公共施設となっていますけれども、それぞれ10%以下といった結果が出ています。

以上です。

○議長（福田正男議員） 北川さん。

○5番（北川陽菜さん） ありがとうございます。話は変わりますが、都会のバスは停留所に前の

バス停を出発しましたなどが表示されるサービスがあり、バスを待っているときに、その表示が出るといらいらしないで待っていられますが、島田市のコミュニティバスにそのようなシステムはないと思います。運賃の割引とか、その他、利用者へのサービスとして、何か行っていることはありますか。また、何か計画していることはありますか。

○議長（福田正男議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） 現在、バスの料金、運賃については全地区において高校生以下は半額、それから乳幼児や障害者手帳を持っている皆さんについては無料としています。また利用者へのサービスとして、現在、バスロケーションシステムというものを導入に向けて準備をしています。このバスロケーションシステムというのは、例えばパソコンとかスマホで島田市のコミュニティバスが今現在、どのあたりを走っているかといったことをリアルタイムで確認できるシステムです。これによって持ち時間の短縮に役立つということ、それから天候の急変とか事故などによって運休をしたり遅れたりしているということを確認することができます。順調にいけば、今年度、本格的に導入をする予定ですので、ぜひまた利用していただきたいと思います。

以上です。

○議長（福田正男議員） 北川さん。

○5番（北川陽菜さん） ありがとうございます。私もスマホを使っているので、導入されたら、私もスマホで見たいと思います。バスロケーションシステムは若い人にはもちろん、これからのスマホ世代の高齢者にも身近に感じ、利用しやすいものになるといいと思います。しかし、バスの増便や新規路線の創設はなかなか難しいとなると、今後の島田市の公共交通を考えると少し不安になります。そこで、バスにかわる移動手段として何か計画、検討しているものはありますか。

○議長（福田正男議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） 島田市内にはコミュニティバスの路線がない地区、それから路線があっても、最寄りのバス停まで遠いといった地区があります。また、高齢者をはじめとしていろいろな方が買い物に行くことや、通院する場合において御苦勞をしているという話は聞いています。そうしたことを受けまして、今年度から市役所の中で関係をする課、例えば高齢者の方を担当する長寿介護課、それから障害をお持ちの方を担当する福祉課、それから小さな子どもを持つ保護者の皆さんを支援担当する子育て応援課といったところの担当者が集まりまして、いろいろな移動手段の構築に向けた検討会を行っています。また公共交通としては、バスに替わるものの一つとして、今タクシーを使った移動手段の構築ができないかということの研究をしています。例えば自宅から最寄りのバス停までタクシーを利用するか、自宅から地区内の病院までタクシーを利用するといったことなど、どのくらいの方に利用してもらえるのか、どんな方法が利用しやすいのかといったことを検証する実験を予定しています。なお、その場合の利用料金も、皆さんが利用しやすい料金設定にしたいと今考えております。

以上です。

○議長（福田正男議員） 北川さん。

○5番（北川陽菜さん） ありがとうございます。バス以外にタクシーもバスと同じような料金で利用できれば、移動手段の選択も広がり、買い物や通院などで苦勞している人が少なくなると思います。私は高校を卒業して車の免許を取れば、バスやタクシーを利用しなくなるかもしれません。しかし、現在でも高齢者や高校生、中学生、また免許証を持っていない方にとっては、バスやタクシーは貴重な移動手段だと思っています。

いろいろなお話をお聞きしましたが、最後に一つ提案させていただきます。今のコミュニティバ

スは本数も少なく、いい時間がないというのは仕方のないことかもしれません。特に時間に関しては人それぞれ利用したい時間が違うので、それを全てかなえようとするとうりがありません。ただ、目的地は圧倒的に駅が多いということであれば、その貴重なバスの利用者が利用しやすくするために、島田駅、六合駅、また金谷駅でのJRとの乗り継ぎに関してもっと御配慮いただければありがたいと思います。朝の通勤・通学で市外へ出る方、帰日も市外から帰ってくる方がとても多いと思います。乗り継ぎがよくなれば、免許を取った後でも、今日のことを思い出して、ぜひバスを利用したいと思っています。もちろん今でもちょうどいい時間があれば利用したいと思っています。

これで質問・提案を終わらせていただきます。
ありがとうございました。

○議長（福田正男議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 北川さん、御質問ありがとうございます。おっしゃることはよくわかりましたし、また、本物の市議会の皆様方からもコミュニティバスの件につきましてはさまざまな御要望・御意見・御質問等を日頃からいただいているところでございます。しかしながら、利用者がまだ、昨年度でございますが、人口の0.4%しかいないという中で、1本路線バスを増やすと先ほどお話ししたように630万円かかり、うち530万円が赤字として積み重なっていく。今現在2億4,000万円ほどコミュニティバスの年間の運行費用としてかけております。これが4億とか5億とかなっても、コミュニティバスは充実したほうがいいのか、それともデマンド等のタクシーを使ったらいいのか、例えばタクシーで言いますと、島田市は今、高齢化率29.7%、約3万人の65歳以上の方がいて、75歳以上の方がその約半分の1万5,000人ほどです。この1万5,000人の方が月に1回、市民病院に通うとして、では片道1,000円ずつタクシー代をチケットで補助しましょうといいますと、年間に大

体3億6,000万円かかります。また、75歳以上でも元気な方もいらっしゃれば、75歳以下でも通院が必要な方もおられます。そうすると、タクシーチケットを公平に出すということも大変難しい仕組みだと思っているところです。

そうした中、今、島田市はそれぞれの地区で地区内のデマンドと申しますか、タクシーを運行していただけるならば、車の代金、そしてガソリン代、保険代、そして運転手の費用、これをまとめて島田市のほうで負担をし、各地域に運行していただけないかということで御提案をしているところでございます。ぜひ地域の中でNPOを立ち上げたり、自治会でもかまいません。こういった高齢者の足になるような運行の仕組みを御検討いただければありがたいというふうに思っております。また、JRとの乗り継ぎについて配慮いただきたいというのはごもっともなことだと思います。先般も島田市に観光に来られた方が、いざバスに乗り継ごうと思ったら、出てしまった後だったということで、大分お話をいただきました。そういうことのないように、JR、そしてまた大井川鉄道との連携等も図ってまいりたいとも思っております。

それからもう1点、バスについては既存の民間の会社もバスの運行をやっております。そうしますと、コミュニティバスはやはり民間の運行が最優先、既得権益を守っていくということでございますので、どうしても同じ路線にコミュニティバスを走らせるということは難しゅうございます。そういったことも御理解をいただければと思います。より多くの市民の皆様コミュニティバスの現状、そしてこれからの課題を知っていただくよい機会を提供していただきました。ありがとうございます。

○議長（福田正男議員） 北川さん。

○5番（北川陽菜さん） ありがとうございます。
これで質問・提案を終わらせていただきます。

ありがとうございました。